

## 2024 年度 事業計画

当財団設立の目的である「潤いのある郷土づくり、豊かでゆとりのある個人生活づくりに寄与する」ことを念頭に引き続き事業活動を行う。

当年度スタートから週休日をこれまでの月曜日から日曜日・月曜日の2日にするとともに、これまでの7事業部門を郷土研究部と交流事業部の2事業部に再編する。職員の交替制勤務廃止により効率的な業務運営を実現するとともに、各職員のノウハウやネットワークを融合させ企画力、実行力を高める。

個々の事業については、多様化する芸術・文化活動へのニーズに対応しながら、特徴ある企画の実施が求められる。具体的には、藝文友の会会員減少も踏まえたコンサート等催事の見直し、当財団の基盤である『常陽藝文』誌を軸としたイベント企画を立体化するとともに、見学型企画実施への体制整備を進める。また、土曜日や祝日に行催事を多く設定し参加機会の拡大を図るほか、SNS等のインターネットを活用した広報活動、申込受付手続きのシステム化によって利便性を向上させる。

2025年度から公益法人認定法改正等の制度改革が本格化し、民間による公益活動の活性化が期待されている。当財団においては、地域の芸術・文化の発展に資するという目標に向かって、創意工夫とその実践活動の継続に努める。

## 1. 地域の芸術・文化に関する調査研究事業

当財団の基盤事業として、郷土の歴史・民俗・芸術・自然などのテーマを様々な角度から掘り下げて誌面で紹介するほか、映像として記録・保存する。また、蓄積されたデータの公開を進めるとともに、有意義な活用方法について研究を進める。

### (1) 文化情報誌『常陽藝文』の発行

巻頭企画（メインテーマ）、連載記事、スポット記事を通して、郷土の文化、風物を幅広く紹介する。巻頭企画はテーマを掘り下げながらもわかりやすく伝えることを編集方針とし、ジャンルや地域が偏らないようテーマを設定、その研究者、専門家などに執筆を依頼する。

#### [巻頭企画（メインテーマ）年間計画]

月号	巻頭企画テーマ（仮題）	執筆者	地域
4月号	鉄道のある風景Ⅰ	川俣 正英 (元茨城県立歴史館行政資料室長)	県央・県西
5月号	魂の野球人 石井連蔵 <sup>れんぞう</sup>	インクライン (文筆業・ルポライター)	県北
6月号	【特集】茨城海岸線物語	庄司 元雄 (元茨城新聞社記者)	県北・県央 鹿行
7月号	しもだて駅前散歩	当財団担当者	県西
8月号	鉄道のある風景Ⅱ	川俣 正英	全県
9月号	映画撮影監督・川又昂 <sup>たかし</sup>	インクライン	県央
10月号	中村彝 <sup>つね</sup> ・没後100年	茨城県近代美術館	県央
11月号	武甕槌 <sup>たけみかづちのおおかみ</sup> 大神と鹿島神宮	鹿島神宮文化研究所	鹿行
12月号	【特集】土浦藩主・土屋政直	木塚 久仁子 (土浦市立博物館 副館長)	県南
1月号	利根川東遷と常総地域	橋本 直子 (元葛飾区 郷土と天文の博物館 学芸員)	県南・県西
2月号	茨城 塩の道	庄司 元雄	全県
3月号	健土健民・黒澤西蔵 <sup>とりぞう</sup>	市村 眞一 (常陸太田市郷土資料館 館長)	県北

### (2) 『常陽藝文』既刊の活用

- ① 2024年1月に開始した藝文友の会会員向け『常陽藝文』のウェブ配信を現在の2冊から順次拡大していく。
- ② 在庫を有する号については、テーマ毎のセットによる割引販売および関連講座・セミナー等開催時における直接販売を積極的に実施する。

### (3) 『常陽藝文』を軸とした企画の展開

誌面で取上げたテーマに関連した展示や講演会、見学会を伴う講座などの企画を普及啓蒙活動、教育研修事業として実施し、郷土文化の理解促進を図る。

### (4) 映像資料の記録・活用

郷土の伝統文化・風物および美術家の制作風景の記録、保存を継続する。教育研修事業のビデオ講座にも活用する。

ビデオライブラリー(200本超の映像作品)を各地の関連イベントに提供するなど認知度向上を図るとともに頒布を推進する。

## 2. 芸術・文化の普及啓蒙活動

茨城県に關係する音楽家の紹介と優れた音楽・芸能などに触れる機会を提供するため、県内各地で音楽・古典芸能の公演などを開催する。

また、郷土に関わる芸術の発掘と紹介を目的に、センター1階の藝文ギャラリー・藝文プラザにおいて絵画・工芸などの企画展を開催する。

### (1) コンサート等催事の開催

ふれあい催事として、茨城県出身の新進音楽家のコンサートを開催するとともに、新たに地元出身の音楽家を中心としたセッションのコンサートを企画、県内各地のホールで開催する。

優待催事として、全国で活躍するアーティストなどの優れたステージに触れる機会を提供する。

#### [ふれあい催事 開催計画]

	開催場所 予定地	交渉予定出演者	備考
1	水戸芸術館	茨城の名手・名歌手たちスペシャルコンサート 出演：「茨城の名手・名歌手たち」オーディション合格者	水戸市芸術振興財団 共催
2	水戸市	Traveling Performance 2024 「SHAKUHACHI JAZZ クインテット」 出演：小林鈴勘(尺八)ほか	(企画制作) いばらき文化 振興財団
3	古河市		
4	結城市		
5	高萩市		
6	牛久市		
7	鹿嶋市		
8	行方市		
9	水戸市	第6回藝文コンサート奏 出演：一條翠葉(メゾ・ソプラノ)、大川遥(クラリネット)	2023年度延期

※藝文友の会会員招待

[優待催事 開催計画]

開催予定地	交渉予定出演者	ジャンル	備考
県北	未定	未定	1回公演
県央	藝文寄席	落語	2～3回公演
県南	太鼓芸能集団 鼓童	和太鼓	2回公演

※藝文友の会会員優待（有料・優先受付）

(2) 絵画等企画展の開催

郷土作家展シリーズとして、多様なジャンルの5つの美術企画展を開催する。

[藝文ギャラリー展示 年間計画]

会期	日数	展覧会名	ジャンル
2024年 4/2(火)～6/1(土)	42	郷土作家展シリーズ第287回 村山隆治展	現代美術
6/11(火)～8/10(土)	44	郷土作家展シリーズ第288回 渡辺浩三展※	洋画
8/27(火)～10/26(土)	44	郷土作家展シリーズ第289回 仲裕行展	日本画
2025年 11/5(火)～1/11(土)	44	郷土作家展シリーズ第290回 山口堅造・みちよ展	金工
1/21(火)～3/22(土)	44	郷土作家展シリーズ第291回 福野道隆展	陶芸

(3) 藝文プラザの貸出

センター1階の藝文プラザを当財団企画展で使用するほか、地域の方へ創作活動の作品発表の場として提供する。

当年度中6月に展示パネルのリニューアルを実施する（設備投資額5百万円）。

### 3. 芸術・文化に関する教育研修事業

生涯学習のニーズに対応し、社会人のための学習の場を提供する。

人文学分野を中心に、茨城県内を中心とした各分野の研究者・専門家による地域に根差した講座を展開する。

#### (1) 「藝文学苑」講座数・受講生数の計画

		2023年度 10月期実績	2024年度 4月期計画	2024年度 10月期計画
水戸教室	講座数	71	70	70
	受講生数※	914	777	777
つくば教室	講座数	38	38	38
	受講生数	450	434	434
合 計	講座数	109	108	108
	受講生数	1,364	1,211	1,211

※2023年度10月期水戸教室受講生数は12/9「茨城の古墳文化」講演会参加者134名含む

#### [2024年4月期主な新規募集講座]

一般教養	(水戸教室)素粒子の目で見る宇宙のからくり (つくば教室)筑波山・植物の魅力、昭和初期の日仏美術交流－藤田嗣治や佐伯祐三の画業を通して－、宇宙は数学という言葉で書かれている
文 学	(水戸)芭蕉講座・「奥の細道」を読む (つくば)あなたの言葉で綴る文章(前編)
歴 史	(水戸)マヤ文明の実像にせまる、佐竹氏の周縁－天下人－編、中世の城めぐり～県西編(真壁編)(結城編) (つくば)茨城の寺院と仏教、歴史の視点Ⅰ－転換期の資料からみた古代の茨城－、長塚節『土』から読み解く茨城の生活文化(前編)、利根川から考える茨城の開発
民俗・宗教	(水戸)はじめて学ぶ民俗学 (つくば)筑波山周辺の祭りと信仰
提携講座 (提携先)	動物園から伝えるメッセージ(日立市かみね動物園) フォトグラフ・ワークショップ/文化財を撮影しよう(常陸太田市) つくばの歴史再発見!2(つくば市教育局文化財課) 意外に知らない土浦の歴史(土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場)
ビデオ講座	海の民俗信仰Ⅰ～船霊と女性～、海の民俗信仰Ⅱ

#### (2) その他の継続講座

地方史公開セミナー(茨城地方史研究会共催) 4月・10月 計2回

#### (3) 土曜日・祝日オープン講座の実施

土曜日・祝日に気軽に参加できる講座を設定し、平日働いている方等を対象にSNS等も活用して幅広く募集を行う。スタート講座として「巡って学ぼう!筑波山地域ジオパーク」を関係各市町村と連携して開催する。

#### 4. 常陽史料館の運営管理受託業務

常陽銀行が郷土の歴史や芸術文化、金融経済に関する資料を収集し、広く県民に公開する目的で設立した「常陽史料館」の運営管理を行う。

常陽藝文センター事業と連携を図りながら、魅力ある企画展示の開催と広報の強化により来館者の増加を図る。

##### (1) 貨幣ギャラリーの運営管理

お金の歴史、銀行の歴史を常設展示する。茨城県唯一の貨幣資料展示室であることを積極的にPRしていく。企画展来場者への案内のほか、児童・生徒などの団体にはガイド案内を行い金融教育の一助とする。

##### (2) 史料ライブラリーの運営管理

郷土文化や金融に関する図書資料を収集し公開する。

##### (3) 創作工芸等企画展の開催

茨城県内で活躍している作家を中心に、ジャンルにとらわれない6つの創作作品の企画展を開催する。

次年度以降は史料館の特性を生かして、歴史・民俗の展示を組み込んでいく予定である。

##### [アートスポット展年間計画]

会期	日数	展覧会名または展示作家名
2024年 4/ 2(火)～ 5/25(土)	38	高鳥達明 テンペラ画展 ～螺旋の導き～
6/ 4(火)～ 7/20(土)	35	大貫博之 陶展 30年 これまで これから
7/30(火)～ 9/21(土)	35	吟遊紙人 田所正志 切り折り紙展
10/ 1(火)～11/16(土)	35	松尾桃陽 磁器・金属・写真展
2025年 11/26(火)～ 1/18(土)	35	佐藤陽香 絵画展 (洋画)
1/28(火)～ 3/22(土)	40	佐久間あすか 立体造形展 (現代美術)

## 5. 藝文友の会

### (1) 会員数計画

#### [藝文友の会会員数 計画]

	2023/3 実績	2024/3 見込	2025/3 計画	年間増減
個人会員	19,091	17,512	16,062	▲1,450
法人会員	1,085	1,001	916	▲85
合計	20,176	18,513	16,978	▲1,535

### (2) 会員特典の実施

- ① 文化情報誌『常陽藝文』の毎月発送・配布（1. 調査研究事業参照）
- ② コンサート等催事への招待・優待  
自主催事（2. 普及啓蒙活動参照）および他団体催事に招待、優待する。  
（他団体催事：いばらき文化振興財団主催「茨城県新人演奏会50周年記念コンサート」への招待を予定）
- ③ 藝文学苑の受講料割引（3. 教育研修事業参照）
- ④ 提携文化施設入場料の割引

<b>[提携文化施設]（2024年4月1日予定：計45施設）</b>
<b>【美術館：12施設】</b> 茨城県近代美術館、茨城県つくば美術館、茨城県天心記念五浦美術館、茨城県陶芸美術館、大洗美術館、笠間日動美術館、月山寺美術館、古河街角美術館、しもだて美術館、春風萬里荘、篆刻美術館、水戸芸術館現代美術ギャラリー
<b>【博物館：19施設】</b> アクアワールド茨城県大洗水族館、板谷波山記念館、茨城県立歴史館、大洗海洋博物館、大洗幕末と明治の博物館、北茨城市歴史民俗資料館（野口雨情記念館）、ギター文化館、古河文学館、古河歴史博物館、下妻市ふるさと博物館、大本山願入寺開基堂、常磐神社義烈館、日立市かみね動物園、日立シビックセンター科学館天球劇場、常陸風土記の丘、本場結城紬染織資料館手緒里、水戸市立博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、予科練平和記念館
<b>【健康・スポーツ・体験施設：14施設】</b> 阿字ヶ浦温泉のぞみ、奥久慈茶の里公園、きぬの湯、四季彩館、乗馬クラブ・クレイン竜ヶ崎、竜っちゃん乃湯、つくば牡丹園、つくば湯、ぬく森の湯、ピアスパークしもつま温泉施設、ホロルの湯、森林の温泉、八千代グリーンビレッジ憩遊館（けいゆうかん）、竜神大吊橋

- ⑤ 常陽藝文センター施設利用料割引

## 6. その他受託業務等（収益事業）

### （1）美術品の管理・展示業務

常陽銀行の有する美術品の管理およびショーウィンドウ等への展示業務を行う。

### （2）映像制作受託業務

映像撮影、編集等の技術ノウハウを活用して映像制作の受託を行う。

### （3）貸室業務

常陽藝文センター施設所有者の常陽施設管理からの受託業務として、当財団事業で未利用時の教室・会議室等の貸出を行う。

## 7. 共通事項（事務局）

### （1）DX化の推進

コンサートや講演会のウェブ申込・受付を開始する。年度 初めに専用アプリケーションソフトを導入し管理事務を効率化する。

また、『常陽藝文』誌のウェブ購読および講座のオンデマンド配信について検討を進める。

### （2）エントランス空間の刷新

センター1階藝文ギャラリー、藝文プラザに関する備品更新等により、美観向上と活用の多目的化を進める。

### （3）地域見学ツアー開始に向けた事業追加認定申請

2025年度から、地域の文化資源への理解促進を目的とした見学ツアーの企画募集を行うため、旅行業に登録するとともに行政庁への事業追加認定申請を予定する。

### （4）県内市町村との関係強化

これまでも各市町村とは『常陽藝文』誌取材や藝文学苑の講師派遣等で協力を得てきたが、今後の見学ツアー等地域に触れるイベントの活性化に向けて、一層の関係強化を図っていく。

以上